

京都

ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

- 2 会長挨拶 介護保険の要(かなめ)からの進化に期待
平成28年度公益社団法人京都府介護支援専門員会 定時総会報告
- 3 代議員紹介 ～選挙結果報告～
組織図
- 4 委員会の活動紹介
 - ・公益事業委員会
 - ・認定調査委員会
 - 5 ・第三者評価委員会
- 「日本ケアマネジメント学会第15回研究大会in北九州」のご報告
- 6 わが町良い人・良い暮らし 綾部市物部上市地区サロン「山ぼうし」
- 7 わが町良い人・良い暮らし 医療・介護・福祉と住民をつなぐ多職種カフェ
「ふれあいカフェ・うじ」
- 8 事務局からのお知らせ／編集後記

会長挨拶 介護保険の要(かなめ)からの進化に期待

介護保険制度が施行されてから16年が経過しようとしています。介護保険の制度や各種のサービスがこれだけ国民にとって、身近なものになった背景には、我々介護支援専門員の存在が大きかったと自負する反面、その役割と責任をしっかりと果たして欲しいという社会からの強い期待や願いの表れ、反動もあるのでしょうか? 相変わらず介護支援専門員を巡る情勢には厳しいものがあります。

介護支援専門員に対しては、これまでも様々な指摘がされているところですが、ケアマネジメントの重要性が再認識される中で、「介護保険の要(かなめ)」に留まるのではなく「地域マネジメントの要」「医療と介護の連携の要」「多職種連携の要」へと、その役割期待が大きく変容しつつあるように思います。

平成30年、診療報酬と介護報酬の同時改定に向けて、これらの点を総合的に議論する国の審議会等が既に始まっています。ケアマネジメント並びに介護支援専門員のあり方も大きな転機を迎えており、特に今年度スタートした新たな研修体系についても意見集約し、発信していく必要があると考えています。

現在の執行部も残る任期は1年足らずとなりました。役員だけではなく、1人でも多くの会員に本会の運営に参加してもらいたいと取り組んできましたところ、委員会・ワーキンググループに新たなメンバーにたくさん参加してもらうことができました。この場を借りて感謝申し上げます。

(公益社団法人京都府介護支援専門員会会長 井上 基)

平成28年度公益社団法人京都府介護支援専門員会 定時総会報告

平成28年6月26日(日)午前11時より、登録会館(京都市中京区)にて公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度定時総会が開催されました。

冒頭、井上会長から「先日の日本介護支援専門員協会の総会ではブロック活動の活性化をどのようにするかで議論され、当会におきましても中長期の計画で会員数の増加の具体的な目標を立てています。現在の執行部も会員数の増加や会の活性化に努めているので今後も皆様のご協力を賜りたい。」と挨拶がありました。

報告事項

- 報告第1号 公益社団法人京都府介護支援専門員会平成27年度事業報告について
- 報告第2号 公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度事業計画について
- 報告第3号 公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度収支予算について
- 報告第4号 公益社団法人京都府介護支援専門員会諸規程について
- 報告第5号 顧問の選任について

決議事項

- 第1号議案 公益社団法人京都府介護支援専門員会平成27年度収支決算報告(案)について賛成多数で可決されました。

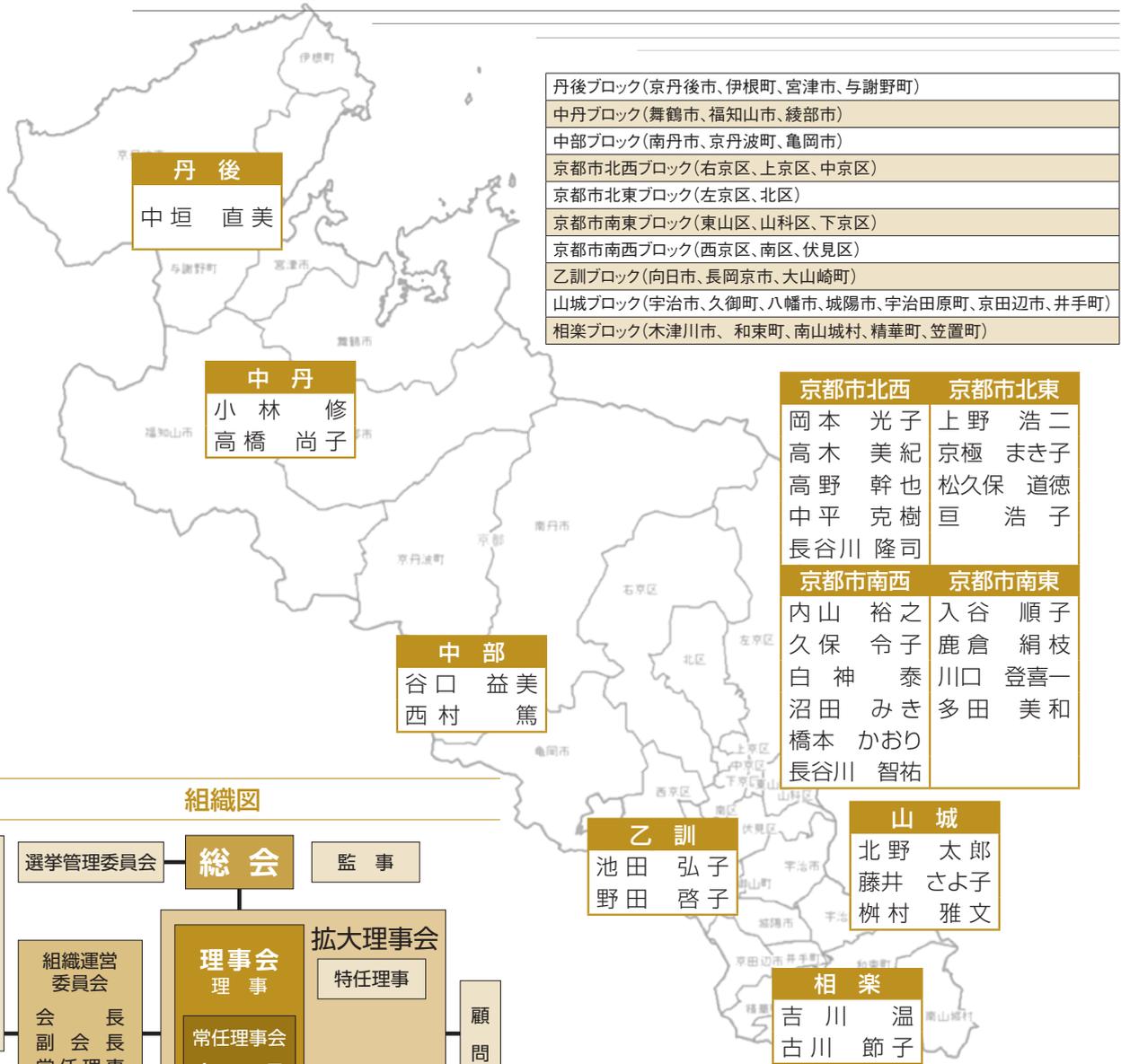
閉会時には小林副会長から「今後も会員様一人ひとりの協力が必要で、組織率の増加をしていくために今後も皆様と一丸になり、皆様の有益になる会を目指します」との挨拶がありました。

以上の内容で閉会となりました。ご多忙の中ご参加いただきました代議員の皆様、ありがとうございました。

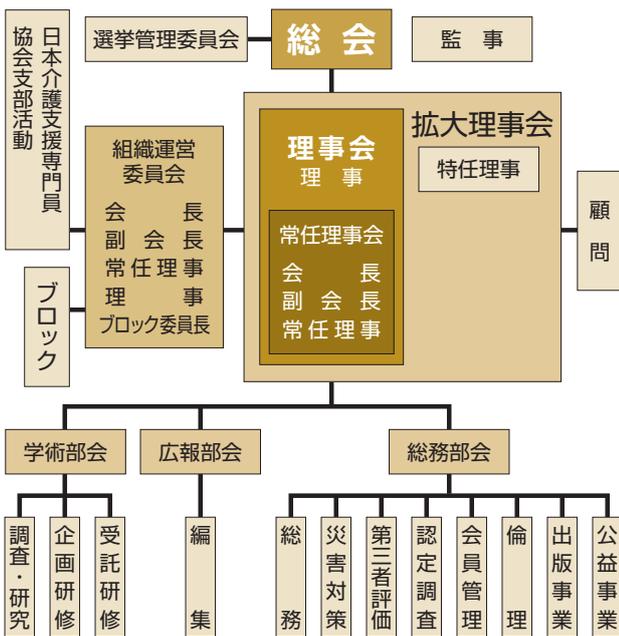


(編集委員長 西村 篤)

代議員紹介 ～選挙結果報告～



組織図



今年の5月に公益社団法人京都府介護支援専門員会代議員31名が選出されました。代議員は、3月31日現在、正会員のうち選挙実施年度の会費納入者数に応じて算出し、ブロックごとに配分されます。ブロックごとの代議員の数は、会費納入者数が50名以下の時は1とし、以降納入者数が50名を増すごとにこれに1を加えた数となります。代議員は立候補制であり、任期は2年間（現在の代議員の任期は平成30年5月まで）です。

(常任理事 堀田 裕)

委員会の活動紹介

京都府介護支援専門員会では12の委員会があり、当会の会員である委員を中心に各委員会が活動しています。今回は、そのうち3つの委員会を紹介いたします。委員会活動に参加ご希望の会員様は、どのような活動をしているのか参考にいただければと思います。

公益事業委員会

当会では、府民の健康と福祉の向上のため、職能団体として啓発を行い、社会福祉の増進に寄与することを目的に公益事業委員会を設置し、会員による委員10名で構成しています。

現在、年度事業としては大きく2つあります。1つ目は京都府医療推進協議会で他職能団体と共に進めている「京都・健康と福祉のひろば」への出展です。恒例の介護保険クイズに回答頂くことで、若い年齢層にも介護保険制度を身近に感じて頂く機会を設け、周知啓発を行っています。今年度も10月2日(日)、京都市勤業館「みやこめッセ」で開催される予定です。

2つ目の取り組みは、「府民公開講座」の開催です。昨年度は「ご飯が食べられなくなったらどうしますか？」と題して滋賀県永源寺診療所の花戸貴司先生にご講演頂きました。300名を超える府民の皆様に聴講頂き、終末期に対する皆様の関心の高さがうかがわれました。今年度も「がん・認知症」などをキーワードにして、府民の皆様の期待に応える府民公開講座を企画しています。

当会が目指す介護支援専門員の役割は、要介護認定者の日常生活における自立支援です。今後もさまざまな情報を府民に幅広く語りかけ、自立を考えて頂く良い機会を設けるべく活動を行っていきます。



(常任理事 甲田 由美子)

認定調査委員会

当会では市町村より、要介護認定調査事務を受託しており、月平均約400件の調査を32名の調査員が行っています。その調査員の資質向上、調査件数の管理等を担っているのが認定調査委員会です。

調査員を対象に、年2回、研修会と懇親会を実施しており、平成28年度第1回認定調査員研修会は7月20日(水)、京都ロイヤルホテル&スパにて開催され、21名が参加しました。今回の研修会のテーマは「判断に迷った項目の選択～事例を通して学ぶ～」と題し、調査票の記入で判断に迷った項目について事前課題を提出してもらい、グループワークを行いました。日頃は、迷った時もなかなか相談できる環境がないため、グループワークを行うことで、調査項目で迷っていることや様々な場面で悩んでいることが共有できました。また、調査項目の根拠や特記事項の書き方等も再確認することができました。

研修後のアンケートでは、「自分だけが迷っているのではないと自信に繋がった」「自分自身の調査についても再確認ができた」との意見をいただき、テキストを読み込むことや特記事項の重要性についても学ぶことができました。

懇親会では、日頃の悩みを共有し労をねぎらい、役員や事務局と親睦を深めることができました。

今後も、研修会の内容の充実をはかり、調査員の資質向上に努めます。



(常任理事 西谷 友香子)

第三者評価委員会

平成17年10月に公民協働で85の参画団体により京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構（以下支援機構という）が設立されました。京都府介護支援専門員会は、支援機構の参画団体のひとつであり、平成24年11月に評価機関としての認定を受けました。「共通評価項目39項目」を活用して、事業者が自己チェックしたものを基に評価機関から調査員が訪問して事業者の取組を確認し、項目ごとの評価結果とアドバイスレポートが公表されます。第三者評価の意義は、「利用者の適切なサービス選択に資する」「サービスの質を向上させることで利用者に安心と信頼を提供する」など利用者、事業者の双方にとって有益な仕組みです。

当会の総務部会の中に第三者評価委員会があり、今年

度2名の新たな委員が加わり、現在は4名の委員と3名の担当理事を中心に活動しています。今年度に入り、5月と7月に委員会を開催しました。第三者評価の資質向上のために、①調査員と審査員の合同研修の実施②審査会マニュアル作成③京都府介護支援専門員会独自の詳細な評価基準作成④受診（調査）から結果公表までの期間短縮のためのシステム作り、以上4点に重点を置き活動していきます。

調査員は全員が介護支援専門員であり、当会の特徴を生かした評価ができます。また、京都の第三者評価の基本方針である「ポジティブアシスト」を具体的に実践するための工夫をしています。今年度は、現在、受診申込がまだ3事業所ですが、会員の皆様に委員会活動を理解してもらうためにも、是非第三者評価を受診して頂き、皆様の声も反映できる委員会にしていきたいと考えています。

（常任理事 川添 チェミ）

「日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会in北九州」のご報告

北九州国際会議場及び西日本総合展示場に於いて、6月18日(土)から19日(日)の2日間の日程で「日本ケアマネジメント学会第15回研究大会in北九州」が開催されました。メインテーマは、「すべての人々の明るい未来を目指して～ケアマネジメントを担う人々の専門性を探る。アジアへの発信!～」。



ケアマネジメントの専門性を深めること、障がい者や生活困窮者等、支援が必要な人々をケアマネジメントの対象と捉えることに重点がおかれていました。生活課題を持つあらゆる人々を支えるケアマネジメントの有効性を実証しようとする大会であったと思います。また、高齢化を迎える北東アジアの

中で、「日本のケアマネジャーが注目を浴びており、ケアマネジメントがモデル的存在になりうるのか」との発想から、韓国（2008年長期療養保険制度が開始されたがケアマネジメント制度なし）、台湾（行政機関にケアマネジャーが配置され、認定とケアプランを一体化実施）、日本を代表するシンポジストによるシンポジウムが企画され、それぞれの国が抱える課題が浮き彫りにされました。今回は、1200名の参加、100演題の発表がありました。

大会前日の6月17日(金)には、認定ケアマネジャーの会主催による全体研修会「公開グループスーパービジョン」が開催されました。コメンテーターに奥川幸子氏を迎え、ファシリテーショングラフィックを用いた一層深いグループスーパービジョンを学ぶ機会となりました。

（常任理事 高木 はるみ）

わが町良い人・良い暮らし

綾部市物部上市地区サロン「山ぼうし」

綾部市物部の上市地区は50軒の集落で、「山ぼうし」は、毎月第三火曜日の午後1時から3時まで公民館で開かれている。入口に「ようこそ。山ぼうしへ」と看板が出ている。スタッフの皆さんが、汗をかきながら準備中だった。最初に沢山の花が目についた。鶯色のテーブルクロスにダリアの赤、ひまわりの黄色、あじさいの水色とピンクが美しく、緊張の糸がほぐれていく。既に席についている参加者が、「今日は楽しみで早く来てしまった」と話しておられ、私に「真ん中あたりに座った方がいろんな話が聞けるで」と勧めて下さった。

受付でチケットを買う。「今日はアイスクリームがあります。飲み物は全部100円。アイスは50円です」手作りのチケットの中に、変わった形のチケットがあった。質問すると「これはマッサージのチケット。スタッフのお嬢さんが、マッサージが上手なので時々お願いするんです」とのこと。参加者が、「私はいいいんよ、こうやってお世話してもらえりし。でも、



この人らは次にお世話してくれる人がないやん。それが気の毒」と話してくれる。サロンとデイサービスとの違いを語った方が

いた。「笑い声、話し声は職員さんにつくってもらうんやなく、自分から」だそうだ。別の場所ではある人がグチをこぼす。「どんな日もあるわな」と声がかかる。

山ぼうしは2011年に始まり今年で6年目になる。最初は綾部市内の別の地区でサロンが立ち上げられた。スタッフはそこで運営を学び、1年後に綾部市内6地区の全てにサロンが立ち上がった。あるスタッフは「やはり、地元ということは大事。知らない相手だとお互いが緊張してしまう。会話が違うんです」と話され、参加者からも「よそは行かれへんわ。自分の地域が一番」と同意の声が上がった。6地区のサロンにはそれぞれの特徴がある。紙芝居が得意な人がいればサロンで披露してもらおう。歌の上手い人がいればサロンに歌声が響くという具合だ。6地区の上に統括本部があり、上市地区は本部と、独自に自治会からの補助金、

参加者の自己負担金で運営されている。上市地区のスタッフは、地域の独居高齢者見守り隊の顔も持っている。サロンに来る人も来られない人も、地元の誰かが緩やかに理解している。



スタッフの一人に先ほど耳にした今後の懸念を伝えてみる。少し考えた後で、「今の参加者はもともと婦人会で、人の面倒を見てきた人達なんですね。婦人会が無くなった後、「山ぼうし」が引き継いだ。サロンの形はどんどん変わっていいと思うんです。例えば、スタッフが年を取って身体が不自由になっても、集まれる場所として残って行けばいい。「腰が曲がってしまったから人に見られたくない」と言って参加されない人がいるんですが、サロンは、「そんなこと皆知っているよ。それも含めてあなたじゃない」と言える場所だと思います」と答えが返ってきた。そこにおいて、心地よい居場所を実感できたひとときだった。



(編集委員 佐藤 弓子)

わが町良い人・良い暮らし

医療・介護・福祉と住民をつなぐ多職種カフェ「ふれあいカフェ・うじ」

世話役の一人として活動されている社会福祉法人くらしのハーモニー東宇治北地域包括支援センターセンター長 北野太朗様（当会山城ブロック委員長・代議員）に、人と想いをつなぐ地域ネットワーク作りの実践についてお話を伺いました。



Q1 「ふれあいカフェ・うじ」を立ち上げるきっかけを教えてください。

A1 平成27年12月、宇治市木幡にある武田歯科医院の武田吉治先生から一通のメールが来ました。その日の昼に参加した研修会のグループワークで、「連携という名の懇親会、つまり飲み会を開催することになった。日も時間も決まった。場所・会の名前・会費等は任せるのでよろしく！参加者集めはよろしくね！」と（笑）。

渡りに船、ではあったのですが、事務局的なことをガッツリ担うことに多少の躊躇いはあったものの、宇治市平尾台で開業されている“かどさか内科クリニック”の門阪庄三先生も同じ想いと知り、「仲間もいるし、助けてもらったらなんとかなるやろう」と開催に向けて動くことになりました。



Q2 開催に向けて苦労されたことや工夫されたことはありますか。

A2 はじめに悩んだのは会費でした。お手軽価格、1000円以下にしたかったのですが、お店を貸し切ってしまうとそんな金額におさまらない。そこで思い出したのが知人の中澤まゆみさんが東京都世田谷区で実践していた“せたカフェ”での「もちより形式」でした。“せたカフェ”のコンセプトである【①どんな立場の人でも立場や所属



を背負わず個人として参加し、ビジネスに利用しない。②肩書きは関係なく横並びの関係でお互いを尊重して活動する。③参加者の「やりたいこと」は、みんなで

話し合いながら後押しする。】という3つのお約束をのれん分けして頂きました。また、会場探しも悩みましたが、昨年10月に宇治市の御蔵山商店街にオープンしたカフェ・クラリネのオーナー西村聡美さんにご協力頂きました。西村さんは宇治市の認知症カフェ事業である「れもんカフェ」の起点となったお店で以前働かれており、そうした背景もあって「地域に何か貢献したい」という想いをお持ちでした。

Q3 今後どのような感じになっていったらいいと思いますか。

A3 ごくごく最初は医療とケアの連携という名の“懇親会=飲み会”で始まった企画なので、これまでの3回は医療・介護の専門職が多く、「自己紹介」や「妄想（夢）」を語ったり、テーブルを囲んで地域のことを話していましたが、もっと地域住民の方も気楽に集まれるカフェになっていったらいいと思います。職種や立場、年代の垣根を超えて、福祉にガッツリ興味があってもそれほどなくても、自分が住む街、働く街が今より少し良くなればいいなと思って、その気持ちを語れる場所があって仲間と出会える場所、そんな「ふれあいカフェ・うじ」になっていければいいと思っています。ご興味を持たれた方は、気負わずにお薦めの食べ物1品（2人前程度）・マイカップ・マイ箸・マイ皿・「自己紹介」持参でお越し下さい。



場 所：カフェ・クラリネ（京都府宇治市木幡御園52-11）
六地藏駅（JR奈良線・京都市営地下鉄）徒歩6分
日 時：原則2か月に一回、第3水曜日午後19時～22時
*事前予約不要
参 加 費：1000円（お酒を含む飲み物3杯付）
開 催 日：フェイスブックにて「ふれあいカフェ・うじ」を検索して下さい。
お問合せ：北野太朗（TEL：090-5462-8033）
メール：taro0o0o0o0o0o0o0@gmail.com）

（理事 村上 晶之）

事務局からのお知らせ

■ 会員証について

平成28年8月31日(水)までに平成28年度会費を納入いただいた会員様には会員証を同封しております。

■ 口座振替手続きのお願い

会費のお支払いは便利な口座振替をご利用ください。手続きがお済みでない会員様に「預金口座振替依頼書」を同封しております。11月末日までにご記入のうえご返送ください。

■ 当会ホームページをご活用ください <http://www.kyotocm.jp/>

当会ホームページでは、介護支援専門員更新研修についての情報や当会企画研修の研修年間スケジュール、関係機関からのお知らせなど、広く情報提供を行っております。また、「会員専用ページ」から、各種様式のダウンロードや発行物・書籍の購入も可能です。ぜひご活用ください。

■ 住所・氏名・勤務先等が変更になられた方へ

住所・氏名・勤務先が変更になられた方は、巻末の「住所・氏名・勤務先等の異動届」のご提出をお願いいたします。当会ホームページからも書式をダウンロードできます。入力フォームからの送信も可能です。

※携帯電話のメールアドレスをご登録される場合、「mail@kyotocm.jp」からの受信許可設定をお願いいたします。

編 集 後 記

地域ケア会議を開催していく中で感じるがあります。それは、地域住民の方々がお互いに顔を合わせる機会が減っているということです。私が勤める地域包括支援センターの担当エリアの中には、東の錦といわれ栄えた古川町商店街がありますが、閉店したお店も多く、買い物客も少なくなっている状況です。地域ケア会議の中で、地域住民から「一昔前は、買い物先で出会い、そこでお喋り（情報交換）をしていた」との話がありました。また、子供が少なくなったという理由で、地藏盆を数年前からしなくなったという町内もあります。地域活性化のために、ケアマネジャーの皆さんも担当している利用者を通して、地域をじっくりと見つめながら地域ケア会議を活用し、地域づくりに寄与していきましょう。

(常任理事 堀田 裕)

京都ケアマネ・ポート52号

2016年10月1日発行

発行人：井上 基

編集委員長：西村 篤

広報部会編集委員：柴田 崇晴 塚田 聡 村上 晶之 佐藤 弓子 中嶋 優 松本 善則 堀田 裕

発行元 公益社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/

京都銀行 府庁前支店 普通口座 4151049 名義人) キョウトフカイゴシエンセンモンインカイ